



「見たり、聞いたり、探ったり」No.223

通算 No.375

青木行雄

第14回スリランカフェスティバル(Sri Lanka Festival) 2018年

「光り輝く舞踊と世界遺産」と大きく掲げて今年も、2018年(平成30年)8月4日(土)・5日(日)午前10時から、代々木公園・イベント広場で猛暑の中、在日スリランカ協会会長・サマン・プリヤンカラ氏の挨拶から式典は始まった。外気35℃の炎天下、外気も熱気、お客も熱気にあふれ、テントの中ではあるが熱気に包まれた開会式であった。

JR原宿駅から、会場まで8分かかったが、公園の中は木が多く、多くの人々が歩いていた。ちょっと道をそれると、大きく育った木の下では、今がチャンスとばかり、セミの大合唱もいたる所から聞こえてきた。

今年も私の友人、A・ウィッキー氏の計らいで招待を受けこの式典に参加したが、年々このフェスタの内容が充実して来たように思う。

特に今年は、スリランカの歴史と文化を日本に紹介し、日本にいるスリランカ人も大いに楽しんで、日本との交流を深める為のセレモニーの開催である。

今、スリランカ人が日本に何人いるかわからないが、この2日間で集客は日本人も含め3万人ぐらいだという。



※スリランカフェスティバル会場の入門の門。3ヶ所程あった



※メインステージ。民族踊りが始まっている



※メインステージの上の看板。スリランカの国の絵ガラが組み込まれている



※挨拶するスリランカの主催者



※式典で火入れをする主催者と来賓



※A・ウィッキー氏の受賞風景。大使閣下より、賞状を受け取る場所



※スリランカの国歌と、日本の国歌を歌う来賓の方々

この代々木公園にある野外メインステージで式典は始まったが、まずスリランカの儀式、ローソクの火付から始まり、後半に授賞式があった。長年日本とスリランカとの交流に功績のあった、A・ウィッキー氏に賞状と記念品が贈られた。アナウンサーの紹介では、セイロン島と言われた時代から、国名がスリランカに変更になり、日本でスリランカの国名を高めてくれた第一人者と高く評価した受賞に感銘を受けた。ここ何年間か毎年司会を担当し、この式典では大変忙しく今年は代役がいて受賞来賓の一人となった。

来賓には約300人程はいたかと思うが、式終了後、昼食の接待を受け、スリランカ料理をご馳走になった。

一般的にはスリランカの食事は日本と同じで白米か赤米が主食で、熱いせいもあるかと思うがスパイスたっぷりのカレー食で、朝昼晩と3食カレーという。サンボル(ふりかけのようなもの)も一緒に混ぜ合わせて食べるというから、日本のふりかけやお新香のようなものか。但し、口に入れるのは現地では



※招待を受けた昼食。奥の白いのが白米。スパイスを付けて食べる



※メインステージに向かってテントの中の人々と写真を撮る報道の人々



※テントの中の来賓の人々。赤い着物の人達はスリランカ仏教のお坊さん達



※象のレプリカ。スリランカには400頭以上の象がいるというが、国の象徴はこの象のようだ



※インドの踊りに似ているが違うという。スリランカ特有の踊り。エキゾチックで大変感動した

ハシは使わず一般的に右手でいただくらしい。

写真でもわかるが、単品が多く、これをまぜて食するようだ。

式典後、メインステージでは伝統舞踊が始まった。2500年以上の歴史を持つというスリランカに伝わる伝統舞踊だけに大変すばらしく、目を楽しませてくれた。聞く所によると、キャンディ、ローカントリー、サバラガムワダンスという3つのスタイルの踊りなどがあって、そのダンスには喜怒哀楽や、仏教の教え、物語が表現されているらしく、スリランカの多くの人に親しまれて受け継がれているという。インドの隣りの国なので、インドの踊りにもよく似たところがある。

このステージで披露された舞踊と伝統的な太鼓をはじめとした音楽、衣裳もすばらしくどれも魅力的で、猛暑であることを忘れる程、感動して見入った。



※民族衣装に太鼓等身につけて踊る。伝統の踊り、メインステージより

現在のスリランカ駐日大使館特命全権大使は、ダンミカ・ガンガーナート・ディサーナーヤカ閣下と言われ、大変長い名前の持主である。

閣下の挨拶の一部を紹介すると、

マルコ・ポーロが旅行記で「世界でいちばん美しい場所」と称したと言われる国・スリランカ。2017年(平成29年)には過去最高の旅行者数となる200万人を突破しました。2009年(平成21年)に内戦が終結して以来、ニューヨークタイムズなど、数々の有名誌に取り上げられ、ウェブ版デイリーキャンディなどでは主要な旅行先のトップランキングに名を連ねています。

日本にお住まいのみなさま、旅行会社、投資家の方々、是非、スリランカを訪れ、心安らぐひとときを体験してください。文化、自然、野生動物、そして笑顔あふれる国民。このエキゾチックな島国で、きっと温かなホスピタリティと出合えることでしょう。

なかなか、ユーモアのある閣下の挨拶であった。

それでは重複するかも知れないが「スリランカ」の簡単な基礎知識を記してみたい。

① 地理

正式名称「スリランカ民主社会主義共和国」

インド洋に浮かぶ島の面積は北海道より小さな島で、人口は約2,100万人。日本との時差はマイナス3時間30分である。

② 主要都市・遺産

首都は、1984年(昭和59年)にスリ・ジャヤワルダナプラ・コッテに移行しているが、政治経済の中心は以前と変わらずコロンボである。古都キャンディを含む8つの世界遺産がある。

③ 食(前にちょっとふれたが)

一般的な食事はスパイスたっぷりのカレーで、朝昼晩と3回食べている。白米か赤米で、サンボル(ふりかけのようなもの)も一緒に混ぜ合わせ手でいただく。

④ 気候

季節風の影響を大きく受け、南西部は4月～6月と10月～11月が雨季、12月～3月が乾季。北東部は10月～3月が雨季、5月～9月が乾季。また地域により平均気温が異なり、コロンボは約27度、ワラエリアは約16度と言う。

⑤ 言語・宗教

公用語はシンハラ語とタミル語。イギリスの植民地であったことから、英語も公用語として通用されているようだ。

友人・A・ウィッキー氏は今でも英会話の先生として活躍しているが、母国語も含め6ヶ国語が堪能である。だが日本語が一番難しかったと言っている。

⑥ 民族衣装

女性はインドと同じくサリーを着用。古都キャンディにちなんだ着こなし方もある。また、ハッタヤ(ブラウス)とレッダ(巻きスカート)の組み合わせもある。男性の場合は、サロンと呼ばれる筒状の布を下半身に巻きつける。

2009年(平成21年)に内戦が終結して以降、まだまだたったの9年前のことであるが、急速に国状が豊かになり、ビジネスでも観光でも注目を集めるようになった「スリランカ」、この小さな島国は「インド洋の真珠」と呼ばれるほど豊かで美しい国に成長したと言われる。

東京から直行便で約9時間で行けるようになった。一度は見ておきたい外国である。

今回のこの代々木公園では100以上のブースとショップが一堂に会し、スリランカジュエリー、工芸品など、雑貨・紅茶販売はじめ、スリランカにおける様々な商業(占星術やアーユルヴェーダなど)の紹介、スリランカに旅行に行く場合の観光案内や、航空券購入方法、また、スリランカに関係する書籍なども多く紹介や販売もされていた。

またフードコートでは他では味わえない、スパイスの効いた伝統料理や家庭の味、さらにはスリランカの地酒も楽しむことが出来た。

そして「キングココナッツ」のドリンクも実そのものからナタで割り、中のドリンクをストローで飲んでみたが、おいしいとは言えないが、まあまあーの味であった。



※ブースにある店の案内板。100店舗程あった



※キングココナッツとドリアン。ココナッツ1ヶ500円にて買って飲んだ



※キングココナッツ。大変硬いのでナタでけずり中身を出す。中には果汁がいっぱい。ストローで吸う。終わったら割って、中身の内側にある、柔らかい部分を食べた。これはおいしかった

このフェスティバルは今年で14回目というが、国を上げて他国で自国の宣伝をするスリランカ、これから観光で生きて行こうとする熱意が伝わって来た。

文中の「アーユルヴェーダ」とは

サンスクリット語で「アーユス(生命)」と「ヴェーダ(知識・科学)」という意味の伝統医学で神様が人間に授けた幸せの知恵と云い、統合医療のことでここでは、オイルやスパイスとハーブなどを使い、マッサージ、スチームバス、ハーブバスなどの全身医療のこのようである。

都内にある、スリランカのレストランなどや、医療施設、旅行会社、などなど紹介も多くあった。

いずれにしても日本とのかかわりの深いスリランカの国を上げての努力がひしひしと伝わってきた。

平成30年8月12日

参考資料

スリランカパンフレット

スリランカの8つの世界遺産

WORLD HERITAGE SITES IN SRI LANKA



聖地アヌラダプラ

紀元前5世紀に築かれた街、スリランカ最古の都。仏教聖地としても知られ、アジア最大の仏塔やブッダガヤの聖なる菩提樹が残されています。



古代都市ポロンナルワ

スリランカ第二の都、紀元11世紀から続いた中世の古都です。ガルヴィハーラをはじめとした美しい仏像の数々と巨大な貯水池が圧巻です。



古代都市シーギリヤ

紀元477年から495年にかけて統治したカーシャパ王によって創られました。貯蔵湖と庭園に囲まれた岩山の頂上には豪華な宮廷が築かれています。



ダンブッラの黄金寺院

紀元前1世紀までさかのぼるスリランカで最も圧倒的な石窟寺院です。洞窟内の天井には、側面にまでも及ぶ複雑な仏教壁画が施されています。



聖地キャンディー

シンハラの歴史、文化、宗教で有名な街です。スリランカの最後の王朝が築かれました。仏教聖地の仏歯寺には多くの巡礼者が訪れます。



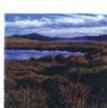
ゴール旧市街とその要塞群

16世紀ポルトガル、16-17世紀にオランダによって築かれた要塞群。コロニアルな街並みが残り、他の地域とは違った西洋を思わせる場所。



シンハラジャ森林保護区

スリランカで最も古い熱帯雨林。キノビーが連なる木々も圧巻ですが、鳥や魚など沢山の固有種の住処でもあります。トレッキングにおすすめです。



スリランカの中央高地

中央高地に位置するナックル森林保護区、ピークワイルダーネス保護区、ホートンプレインズ国立公園の3つの保護区からなります。

すべての世界遺産を回るには？

最短で6泊7日で回ることが可能です。それぞれの観光地をじっくり見るためにはシーギリヤなどでもう1泊延泊されるのもおすすめです。

- 1日目 コロンボ空港到着後、ゴールへ
- 2日目 ゴール観光後、シンハラジャへ
- 3日目 シンハラジャ観光後、ヌワラエリヤへ
- 4日目 ホートンプレインズ観光後、キャンディーへ
- 5日目 キャンディー観光、ダンブッラ観光
- 6日目 シーギリヤ観光、ポロンナルワ観光
- 7日目 アヌラダプラ観光後、コロンボ空港へ

すべての文化遺産を回るには？

最短4泊5日で回ることが可能です。じっくり観光するには5泊6日での旅程がおすすめです。

- 1日目 コロンボ空港到着後、ゴールへ
- 2日目 ゴール観光後、キャンディーへ
- 3日目 キャンディー観光、ダンブッラ観光
- 4日目 シーギリヤ観光、ポロンナルワ観光
- 5日目 アヌラダプラ観光後、コロンボ空港へ

